平成30年度データ解析プロジェクト成果発表会「幸せの構成と時点間による変化」

チーム～池に流れる石～

池田 優香（社会情報学部３年）

渡部 流氷（社会情報学部３年）

石原 公英（社会人学び直しコース）

研究概要

■ 研究内容

- 研究内容として、「JGSS」のデータを利用し、「幸福感分析」を行う。何が要因となっているかを調べ、また時点間による変化も調べる。

■ 研究方法

- 「重回帰分析」をかけて分析を行う。また2012年のデータと2002年のデータを比較して、変化を調べる。

■ 研究結果

- 家庭生活と幸福度の関係性が一番強く、また時点間による変化も見られた。時代背景によって幸福の構成要素に変化があると考えられる。

研究内容　「幸福感の分析」

- 人々は何をもって「幸福だ」と感じるのかを統計学的に分析する。
- 2012年の調査データから、幸福度を規定する要因を検証する。
- さらに、2002年の調査データと比較して、「幸福感」の構造に変化が起きたのか検証する。

なぜ「幸福感分析」を行うのか？

- 人々が生活していく中で、何をもって幸せだと感じるのかに、興味がある。
- 時点間の比較を行うことで、「幸福」の観点から、社会の変化が読み取れるかもしれない。

幸福度の規定要因に関する先行研究

- 多くの先行研究で、**「健康」「家族関係」**などが、さらには近隣の住民とのつながりや地域の生活環境が**幸福度に影響を与えることを示している。**（浦川2011）
- 結婚、家族、子供、健康、隣人関係、働き方、余暇の過ごし方といった**ライフスタイルを変えることにより、幸福度をプラスの方向に変化させることもできる。**（白石2016）
- 既婚女性は、世代や就業形態に関わらず、**結婚生活における幸福感が全体的な幸福感にプラスに影響している。**（山田2007）

幸福度の規定要因に関する先行研究

- 高齢男性の幸福感は配偶者の存在や同居子の有無といった家族領域の影響を強く受け、**高齢女性の幸福感は地域社会での集団参加や余暇領域での活動の影響を受ける。**（宍戸2007）
- **環境配慮的な行動や態度は幸福感とポジティブに関連する。**さらに、経済的負担が小さい環境配慮行動（例：マイバックの使用）では幸福感との相関が見られやすい。（竹橋2011）

先行研究の限界

- **一時点**でのデータ・分析がほとんどである。
- 人々の意識や志向は変わることがあり、**幸福感を規定する要因や構造・強弱は変化する可能性がある。**
- 先行研究は、**変化の可能性**に言及していたとしても、自らの分析でそれを**検証していない。**

本研究の意義

- 継続的に調査されているデータを採り上げることで、直近の幸福感の要因・構造を、また10年前の要因・構造を確認する
- 本分析では、10年スパンの時点間で要因の構造・強弱の変化を検証する

分析方法

■ レイヤー作成

数多の質問項目の中から分析に合うと想定される質問を洗い出し、班員内での検討･考察のもと、構成要因をモデル化する。

■ 第１レイヤーの「重回帰分析」

幸福度質問を目的変数とする「重回帰分析」を行う。（第１レイヤー）

■ 第２レイヤーの「重回帰分析」

また、説明変数ごとに、それぞれを規定すると考えられる質問項目を分別して（第２レイヤー）「重回帰分析」を行う。

使用データ

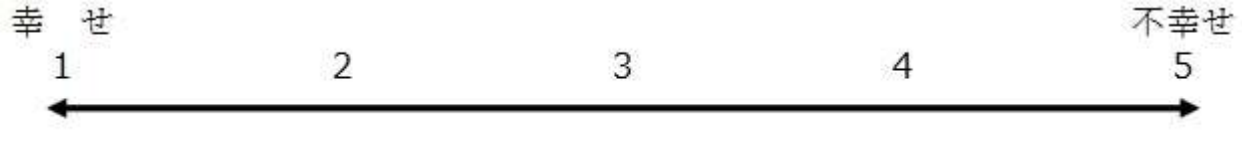
- 大阪商業大学の「JGSS」調査データを使用する。
- 入手可能なものとして最新の2012年のデータと、比較対象として2002年のデータを扱う。

調査概要	2002	2012
調査地域	全国	全国
調査対象	2002年9月1日時点で 満20歳以上89歳以下の男女個人	2011年12月31日時点で 満20歳以上89歳以下の男女個人
標本数	5,000人	9,000人（A票・B票 各4,500）
抽出方法	層化二段無作為抽出法	層化二段無作為抽出法
実施時期	2002年10月～11月	2012年2月～4月
実施方法	面接調査と留置調査の併用	面接調査と留置調査の併用
有効回収数	2,953ケース	A票2,332ケース、B票2335ケース

質問と配点

- 幸福度質問

  Q．あなたは、現在幸せですか。



- 満足度質問など、段階評価は同様の回答形式
- 分析にあたっては、評価が高い（頻度が多い）ほうが高スコアになるように逆順に配点し、さらに各質問で比較できるように標準化し、重回帰分析を行った

分析手順

- １．幸福度質問を目的変数とする説明モデル（第１レイヤー）を設定する。
- ２．重回帰分析でそのモデルを検証する。
- ３．説明変数のそれぞれを規定すると考えられる質問項目を分別し（第２レイヤー）、それぞれ重回帰分析を行う。
- ４．2002年データで同上の検証を行う。
- ５．2002年と2012年の検証結果を比較する。

分析モデル(第1レイヤー)

「幸福感」の構成要因と考えた６つの要素。

家庭生活の満足

家計状態の満足

居住地域の満足

余暇利用の満足

健康状態の満足

友人関係の満足

分析手順

- １．幸福度質問を目的変数とする説明モデル（第１レイヤー）を設定する。
- ２．重回帰分析でそのモデルを検証する。
- ３．説明変数のそれぞれを規定すると考えられる質問項目を分別し（第２レイヤー）、それぞれ重回帰分析を行う。
- ４．2002年データで同上の検証を行う。
- ５．2002年と2012年の検証結果を比較する。

2012　分析結果（第１レイヤー）

自由度調整済み決定係数
0.4768

※数値は標準化係数

※（ ）内は有意性
‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

分析手順

- １．幸福度質問を目的変数とする説明モデル（第１レイヤー）を設定する。
- ２．重回帰分析でそのモデルを検証する。
- ３．説明変数のそれぞれを規定すると考えられる質問項目を分別し（第２レイヤー）、それぞれ重回帰分析を行う。
- ４．2002年データで同上の検証を行う。
- ５．2002年と2012年の検証結果を比較する。

2012　分析結果（第２レイヤー/その１）

家庭生活

- 家族と夕食
  0.19640（***）
- 生活水準向上機会
  0.12529（***）
- 家族人数
  0.00661（ ）

家計状態

- 買い物
  0.00183（ ）
- 家計状態
  0.23860（***）
- 世帯収入レベル
  0.37979（***）
- 所得税の負担感
  0.06809（ ）

居住地域

- 自宅周辺危険場所の有無
  0.07358
  （***）

自由度調整済み決定係数
左から順に
0.05624 , 0.2504 , 0.005177

※数値は標準化係数

※（ ）内は有意性
‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

2012　分析結果（第２レイヤー/その２）

余暇利用

- TV視聴　0.05590（**）
- TVゲーム　-0.02258（ ）
- 読書　0.00511（ ）
- 旅行　0.12952（***）
- ドライブ　0.07055（**）
- カラオケ　0.04057（.）
- 映画鑑賞　-0.04751（.）
- 音楽鑑賞　0.09224（***）
- 園芸　0.10721（***）
- 飲酒　-0.04046（.）

健康状態

- スポーツ　0.05290（***）
- 健康状態　0.78656（***）
- トラウマ　0.05920（***）

※数値は標準化係数

※（ ）内は有意性

‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

自由度調整済み決定係数
左から順に
0.05288 , 0.6291 , 0.1487

友人関係

- 友人と会食　0.35483（***）
- 政治団体所属　-0.02254（ ）
- 業界団体所属　-0.01155（ ）
- ボランティアG所属　0.03815（.）
- 市民運動G所属　0.01240（ ）
- 宗教団体所属　0.00776（ ）
- スポーツC所属　0.03543（.）
- 趣味の会所属　0.06325（**）

分析手順

- １．幸福度質問を目的変数とする説明モデル（第１レイヤー）を設定する。
- ２．重回帰分析でそのモデルを検証する。
- ３．説明変数のそれぞれを規定すると考えられる質問項目を分別し（第２レイヤー）、それぞれ重回帰分析を行う。
- ４．2002年データで同上の検証を行う。
- ５．2002年と2012年の検証結果を比較する。

2002　分析結果（第１レイヤー）

自由度調整済み決定係数
0.3058

※数値は標準化係数

※（ ）内は有意性
‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

2002　分析結果（第２レイヤー/その１）

家庭生活

- 家族と夕食
  0.18176（***）
- 生活水準向上機会
  0.15277（***）
- 家族人数
  0.02307（ ）

自由度調整済み決定係数
左から順に
0.04704 , 0.2715 , 0.00299

家計状態

- 買い物
  -0.02372（ ）
- 家計状態
  0.21738（***）
- 世帯収入レベル
  0.39957（***）
- 所得税の負担感
  0.12127（***）

居住地域

- 自宅周辺危険場所の有無
  0.05773（**）

※数値は標準化係数

※（ ）内は有意性
‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

2002　分析結果（第２レイヤー/その２）

余暇利用

- TV視聴　-0.00268（ ）
- TVゲーム　-0.02253（ ）
- 読書　0.01236（ ）
- 旅行　0.15483（***）
- ドライブ　0.04130（*）
- カラオケ　0.02291（ ）
- 映画鑑賞　-0.02382（ ）
- 音楽鑑賞　0.04078（.）
- 園芸　0.05238（**）
- 飲酒　-0.02867（ ）

健康状態

- スポーツ　0.03468（**）
- 健康状態　0.81007（***）
- トラウマ　0.03277（**）

自由度調整済み決定係数
左から順に
0.03455 , 0.6709 , 0.09917

※数値は標準化係数

※（ ）内は有意性
‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

友人関係

- 友人と会食　0.27937（***）
- 政治団体所属　-0.01147（ ）
- 業界団体所属　0.03638（.）
- ボランティアG所属　0.05940（**）
- 市民運動G所属　-0.02344（ ）
- 宗教団体所属　-0.01985（ ）
- スポーツC所属　0.02469（ ）
- 趣味の会所属　0.06357（***）

分析手順

- １．幸福度質問を目的変数とする説明モデル（第１レイヤー）を設定する。
- ２．重回帰分析でそのモデルを検証する。
- ３．説明変数のそれぞれを規定すると考えられる質問項目を分別し（第２レイヤー）、それぞれ重回帰分析を行う。
- ４．2002年データで同上の検証を行う。
- ５．2002年と2012年の検証結果を比較する。

2002と2012の比較

■ 第１レイヤー

	２００２年		２０１２年	
家庭生活の満足度	0.37180	(***)	0.45775	(***)
家計状態の満足度	0.15023	(***)	0.07899	(***)
居住地域の満足度	-0.00460		0.01291	
余暇利用の満足度	0.00958		0.03859	(.)
健康状態の満足度	0.10214	(***)	0.16794	(***)
友人関係の満足度	0.06686	(***)	0.10008	(***)

※数値は標準化係数

※（）内は有意性

‘***’ 0.001

‘**’ 0.01

‘*’ 0.05

‘.’ 0.1

自由度調整済み決定係数は先程と同様

2002と2012の比較

- 第１レイヤー
- 2002に比べて2012の方が「家庭生活」「余暇利用」「健康状態」「友人関係」の影響が大きくなっている
- 最も影響力が大きいのはどちらも「家庭生活」である

2002と2012の比較

■ 第２レイヤー（その１）

家庭生活の満足度	２００２年		２０１２年	
家族と夕食	0.18176	(***)	0.19640	(***)
生活水準向上機会	0.15277	(***)	0.12529	(***)
家族人数	0.02307		0.00661	

家計状態の満足度	２００２年		２０１２年	
買い物	-0.02372		0.00183	
家計状態	0.21738	(***)	0.23860	(***)
世帯収入レベル	0.39957	(***)	0.37979	(***)
所得税の負担感	0.12127	(***)	0.06809	

居住地域の満足度	２００２年		２０１２年	
自宅周辺危険場所	0.05773	(**)	0.07358	(***)

自由度調整済み決定係数は先程と同様

※数値は標準化係数

※（）内は有意性

‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

2002と2012の比較

■ 第２レイヤー（その２）

余暇利用の満足度	２００２年		２０１２年	
TV視聴	-0.00268		0.05590	(**)
TVゲーム	-0.02253		-0.02258	
読書	0.01236		0.00511	
旅行	0.15483	(***)	0.12952	(***)
ドライブ	0.04130	(*)	0.07055	(**)
カラオケ	0.02291		0.04057	(.)
映画鑑賞	-0.02382		-0.04751	(.)
音楽鑑賞	0.04078	(.)	0.09224	(***)
園芸	0.05238	(**)	0.10721	(***)
飲酒	-0.02867		-0.04046	(.)

自由度調整済み決定係数は先程と同様

※数値は標準化係数

※（）内は有意性

‘***’ 0.001
‘**’ 0.01
‘*’ 0.05
‘.’ 0.1

2002と2012の比較

■ 第２レイヤー（その３）

健康状態の満足度	２００２年		２０１２年	
スポーツ	0.03468	(**)	0.05290	(***)
健康状態	0.81007	(***)	0.78656	(***)
トラウマ	0.03277	(**)	0.05920	(***)

友人関係の満足度	２００２年		２０１２年	
友人と会食	0.27937	(***)	0.35483	(***)
政治団体所属	-0.01147		-0.02254	
業界団体所属	0.03638	(.)	-0.01155	
ボランティアG所属	0.05940	(**)	0.03815	(.)
市民運動G所属	-0.02344		0.01240	
宗教団体所属	-0.01985		0.00776	
スポーツC所属	0.02469		0.03543	(.)
趣味の会所属	0.06357	(***)	0.06325	(**)

自由度調整済み決定係数は先程と同様

※数値は標準化係数

※（）内は有意性

‘***’ 0.001

‘**’ 0.01

‘*’ 0.05

‘.’ 0.1

2002と2012の比較

- 第２レイヤー
- 2002では2012よりも「所得税の負担感」が家計状態の満足度に与える影響力が強かった
- 2012では「音楽鑑賞」「TV視聴」が余暇利用の満足度への影響力が強くなっている
- 2002では2012以上に「ボランティアG所属」が友人関係の満足度に関与しているという特徴がある

まとめ・総括

- 2002年・2012年ともに、幸福度に対して「家庭生活」の満足度が最も影響力が強く、2012年はその影響力がより大きくなった
- 次に影響力が強いのは、2002年は「家計状態」の満足度であったが、2012年は「健康状態」の満足度に代わった
- 2011年3月の東日本大震災が、家計・経済以上に、家族や友人・仲間との絆、健康や安全を重視する価値観に影響したことが考えられる

（本編）

最後（巻末）に、次頁の文献と謝辞

参考文献

- 浦川 邦夫　2011「幸福度研究の現状ー将来不安への処方箋」　『日本労働研究雑誌』No.612（2011年7月）
- 白石 小百合・白石 賢　2016「幸福の経済学ー現状と課題から次のステップへ」　『ソーシャル・ウェルビーイング研究論集』第2号（2016年3月）
- 宍戸 邦章　2007「高齢期における幸福感規定要因の男女差について」『日本版GeneralSocialSurveys　研究論文集』[6]（2007年3月）
- 山田 憂子　2007「勝ち組・負け組論の真実ーJGSS2002データにおける幸福感規定要因分析からの考察」　『日本版GeneralSocialSurveys　研究論文集』[6]（2007年3月）
- 竹橋 洋毅　2011「幸福感と環境配慮行動の関係性」　『日本版総合的社会調査共同研究拠点　研究論文集』[11]（2011年3月）

謝辞

- 日本版General Social Surveys（JGSS）は、大阪商業大学JGSS研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。JGSS-2000～2008は学術フロンティア推進拠点、JGSS-2010～2012は共同研究拠点の推進事業と大阪商業大学の支援を受けている。